



Friday Night Science 令和5年度

大学生のための自然史講座 博物館における自然史研究

—日本列島を中心として—

国立科学博物館における研究の成果に加え、近年の生物多様性研究の知見を交えながら日本列島の自然、自然史について様々な角度から体系的に理解できる講座です。



令和3年度受講者の声（一部抜粋）

遠距離のため、移動時間を考えずに自宅から気軽に参加できてよかった。

様々な分野のお話を聞くことができたので、幅広い知識や教養が身につきました。

「日本の自然史」という括りで自然を見たことがなかったので、日本での研究成果や日本の特徴を世界と比較しながら学ぶことの楽しさを感じた。

大陸プレートの移動や進化の過程など、遠い世界の勉強がとても身近に感じることができ良い刺激になりました。

普段なかなか聞く機会のない研究者の専門的な話を聞くことができて良かった。

改めて科博の展示をじっくりと見て回りたいと思いました。

普段、勉強している範囲とは全く別の領域でしたが、大変わかりやすく講義して下さり、自分自身の見解が広がりました。

研究者の方に質問することができる大変貴重な機会となりました。

対 象：主に大学生・大学院生・専門学校生（一般の方も受講いただけます）

実施方法：オンライン（ライブ型）講義（Zoomを使用予定）
及び 後日 オンデマンド配信（質疑応答は行えません）
配信期間：初回講義後～9月末まで（予定）
※国立科学博物館に来院して行う集合型講義ではありません。

開講期間：令和5年5月～9月まで 全9回
第1・3金曜日 18:00～19:30

募集人数：100名程度

受講料：18,900円*大学パートナーシップ入会校の学生は9,500円
※この講座は9回の連続講座です。1回単位での受講はできません。

★「大学パートナーシップって何？」

「私の大学はパートナーシップに入っているのかわからない」

そんなときは、こちらで一覧をご確認ください。

下記の国立科学博物館ウェブページからもご確認ください。
<https://www.kahaku.go.jp/learning/university/partnership/>

※入会校は、随時更新されます。



受講までの流れ

① お申込み

国立科学博物館 大学パートナーシップ「大学生のための自然史講座」のウェブページからお申込み下さい。（WEB受付）

https://www.kahaku.go.jp/learning/university/partnership/natural_history/

※頂いた個人情報は、本講座に付随する目的のみに使用いたします。

申込締切：令和5年4月24日（月）12時

② 受講者決定

受講申込者には、4月28日（金）までに、受講の可否をメールでお知らせします。

応募者多数の場合には、「大学パートナーシップ」入会校の学生を優先させていただきます。あらかじめご了承ください。

③ 受講料のお支払い

受講料のお支払いなど詳細は、受講決定通知とともにご案内いたします。



国立科学博物館

National Museum of Nature and Science

National Museum of Nature and Science Friday Night Science

大学生のための自然史講座
博物館における自然史研究
～日本列島を中心として～

Curriculum
カリキュラム



第1回 5月19日(金)

副館長 真鍋 真

【自然史とは何か?】

～自然史を意識することで、自分をちょっと変えてみよう!～

自然史は "natural history" の訳なのですが、博物学、自然誌とも訳されるように、その対象は太古の歴史だけではありません。現代の生物とその世界を理解するためには、これまでのプロセスを手がかりにしなくてはなりません。現在を懸命に理解していくことを通じて、私たちは近未来を考えられるようになるのです。

第3回 6月16日(金)

動物研究部長 藤田 敏彦

【日本の動物の多様性Ⅱ】

～海の動物の多様性と系統分類～

動物は 30 を超える動物門に分類されていますが、海にはそのほとんどが分布しており、陸域や淡水域と比較しても、海域は動物の多様性の宝庫になっています。本講義では、日本近海に見られる多様な海生動物を紹介し、それらの系統分類を考えることにより、多様な動物がどのような進化によって生じたのかを概説します。

第5回 7月21日(金)

人類史研究グループ 研究主幹 神澤 秀明

【日本人の形成】

～日本列島にやってきた人々～

私たちが住む日本列島には、いつ、どこから、どのようにして人々がきたのでしょうか。また、どのような変化を経て、現代の日本人になったのでしょうか。本講義では、遺跡から出土する人骨の形態や考古遺物の証拠に加え、近年盛んに行われている DNA 研究から復元される、日本人の起源と成立について概説します。

第7回 8月18日(金)

生命進化史研究グループ 研究主幹 木村 由莉

【日本列島の生い立ち: 哺乳類化石】

～哺乳類の進化史～

大陸移動や気候変動といった地質学的なイベントは、哺乳類の進化にどのような影響をもたらしたのでしょうか。また哺乳類はダイナミックに変化する生態系にどのように適応してきたのでしょうか。本講義では、哺乳類の進化史を俯瞰し、島国となった日本で発見されている哺乳類化石について新知見を交えて解説します。

第9回 9月15日(金)

菌類・藻類研究グループ グループ長 大村 嘉人

【日本の植物の多様性Ⅱ / まとめ】

～共生生物「地衣類」の多様性～

地衣類は菌類が藻類と共生して一つの体を作っている複合体であり、南極や砂漠などの極限環境にまで分布を広げています。知られている子囊菌の約 4 割や担子菌の一部が地衣類であり、菌類の進化を考える上で「地衣化」は重要な戦略だと考えられています。本講義では、地衣類の多様性およびその進化について概要を紹介いたします。

第2回 6月2日(金)

陸生無脊椎動物研究グループ 研究員 奥村 賢一

【日本の動物の多様性Ⅰ】

～クモ類分布からみた日本の島々～

多くの離島を有するとともに本土部分も島国の日本は、生物多様性の高い地域として広く知られています。中でも移動分散能力の低い生物では島ごとに固有種が存在するのに加え、地理的隔離の状況により大陸との関係性も残っています。本講義では、徘徊性クモ類の多様性や、生息状況からみた日本列島の生物地理学的特異性について紹介します。

第4回 7月7日(金)

環境変動史研究グループ 研究主幹 久保田 好美

【日本列島の生い立ち】

～新生代の気候・海洋変動～

気候変動は、時間スケールによってさまざまな要因が重なって起こります。白亜紀末以降は、大陸配置の変化によって地球は徐々に寒冷化していき、過去 80 万年間は、氷期間氷期が繰り返し起こりました。本講義では、新生代の気候変動の要因について整理し、日本を含めたアジアの気候・海洋環境の成り立ちについて解説します。

第6回 8月4日(金)

多様性解析・保全グループ グループ長 遊川 知久

【日本の植物の多様性Ⅰ】

～なぜ日本のランは希少になったのか?～

ラン科は、日本でもっとも多く種が自生する植物の科のひとつです。また、他の科と比べて絶滅危惧種の数はずばぬけて多い反面、固有種は少ないという特徴があります。本講義では、ラン科植物がこうしたユニークな多様性を生み出したことに、日本列島の環境と地理的な特性がどうかかわったか紹介します。

第8回 9月1日(金)

理化学グループ 研究主幹 室谷 智子

【日本周辺の自然現象】

～日本と地震と火山と津波～

日本列島は地震・火山・津波・台風・豪雨など、多くの自然現象による災害に見舞われる災害列島です。その一方で、私たちは地震や火山、豪雨からの恩恵も受けています。本講義では、なぜ日本周辺では地震・火山・津波が多いのか、また、これまで日本が経験してきた忘れてはいけない自然現象や大規模災害などについて紹介します。

お問い合わせ先

国立科学博物館 事業推進部学習課

「国立科学博物館 大学パートナーシップ」担当

〒110-8718 東京都台東区上野公園 7-20

TEL : 03-5814-9877 E-mail : upartner@kahaku.go.jp